

## 第24回ざる研「武藏関・手打 基作」報告

1. 日 時:4月1日(水)10時50分、西武新宿線武藏関駅改札集合
2. 場 所:練馬区関町北2-28-4 「手打 基作」tel03-3920-2228 火曜定休
3. 参加者:荒木、伊藤(順)、小川、国友、小林(久)、鈴木(昭)、堀田、村上、山本、(9名)
4. 費 用:¥25,450. @ ¥3,000. (¥1,550は予備費として留保)
5. 前置き:基作は昨年春に続いての2度目だが、帰途の石神井川沿い桜見物に合わせるため4月  
早々の設定としたが、既に同じ思いの予約が入っていて開店の11時からにせざるを得なかった。
6. 経 過:馬場さんの仕事都合のドタキャンや荒木さんの珍しい思い込み違いのハプニングはあったが、昨年と同じ場所にセットされた席にそれぞれ落ち着いた。  
今日は花壇で少し気温も低めだが、習慣的に生ビールからのスタートとなる。  
飲み会は予め頼んでいたそば味噌焼きと川海老の唐揚げが三つ盛りで配られた。  
お酒は前回が稻田姫だったので今回は新発田の「菊水」辛口日本醸造の常温をメインとして後半を黒部川扇状地の水を使った「銀盤」純米酒の冷やしたが、やはり米子の小川さんから1本だけと稻田姫の注文があったので当店用意の酒は全て試したことになってしまった。



料理は地鶏のつくねと出汁巻き玉子を追加注文し、何れも好評だったが特に玉子は良かったようだ。



当店の石臼挽き手打ち蕎麦は今や北海道産の9割を占めるキタワセソバ(深川市山田)の二八だが、前回同様せいろは二枚盛りに分けてあり女性に人気だった。



外に出たら予報通りぱらっと來たが“春雨じや濡れて行こう”程度のもの、後の用がある伊藤、堀田、鈴木の御三方と別れて6名は石神井川に沿って桜を見上げ、見下ろしながら東伏見へ向かってそぞろ歩く。

何時も電車の中からあつという間に通り過ぎる桜並木をゆるゆると行くのは何とも贊沢なものだ。



やがて大正時代に出来た武蔵関公園に入り、富士見池の周りも桜が池面に映えて中々風情がある。  
池にはンペリアから飛来した金黒羽白の群れが泳いでいた。



瓢箪型の池の奥には初めて足を運んだが、紫の花大根が咲く葦の島にはカワセミが営巣しているとかで撮影ポイントも決まっているようだった。  
今回は酒、蕎麦、桜、に加える楽しみもあって贅沢なひと時を過ごすことが出来た。

7. その他:5月度のざる研は未定、日時、場所、等決まり次第モクサロンニュースに掲載します。